

# 地域計画部会（東海坪エリア）報告書

## 1 実施日時

令和7年11月14日（金） 16：30～18：30

## 2 参加者

東海坪中心的担い手5人、東海坪土地改良区事務局3人、東海村農業委員・農地最適化推進委員3名、オブザーバー2人、東海村職員7人、アドバイザー（株）流通研究所 1名

計21名

### 【部会の様子】



## 3 内容

### <話し合いで出た意見>

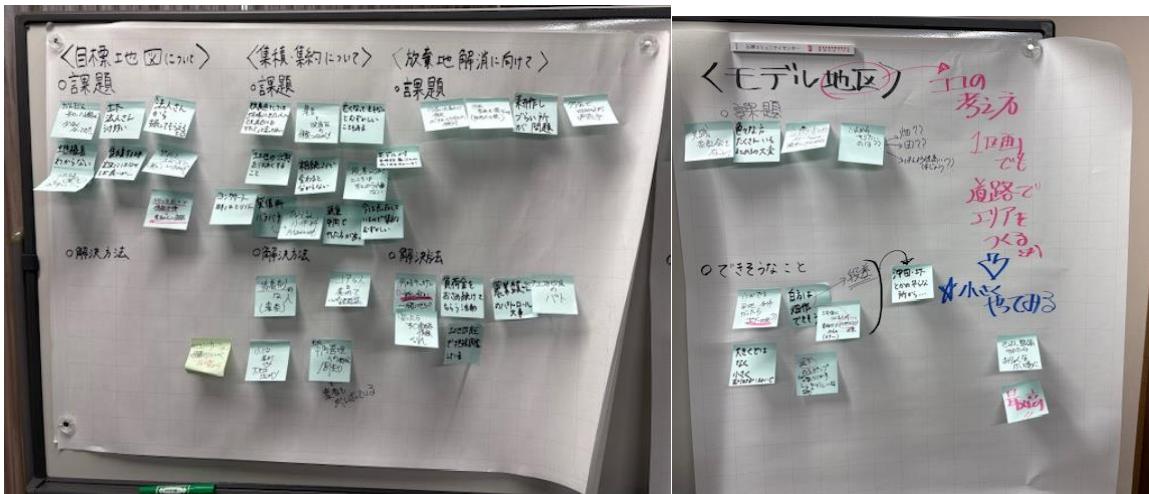
#### ○各個人の意見

- ・農業やっていく人が少なくなり、ボサになったり、預けたいという話もあるが、法人としては思うようにできなくて奮闘している。できればまとめていきたいと思っている。
- ・山際の田んぼの草管理が大変だと感じている。
- ・作付は2反歩。近くの田んぼの管理がひどい。自分のエリアでは70歳が一番若いくらい高齢化が進んでいる。
- ・農地最適化推進員として活動している中で、一番危惧しているのは田んぼについてである。一部は貸してやってもらっているが、思うように耕作されていない。少しでもやりたいが、からだも思うようにいかない。推進委員という立場で地域をみると、農業をやりたくないという人が多い。ほんの一部の人がやっている状況。協力をお願いしたいと思う。
- ・最近は地権者が亡くなり、次の世代に管理者が代わる農地が増えてきた。新しい世代の方々へは「土地改良区とは」という説明からしなければならない。ボサになっている田んぼや畠は現状で作りにくい農地なのでボサになっている。条件の良い場所であれば作る人もいるのではないかという感覚がある。地域の皆さんと一緒に話し合っていきたい。
- ・東海坪改良区として、耕作放棄地解消のための活動をしている。多面的機能交付金活動の中で草刈り等をやっているが、現状で7haが耕作放棄地になっている。解消に向けて色々な活動をしているが、難しい部分もある。個人的には7反6畝の田んぼ

を耕作しており、今のところ家族が手伝ってくれているが、後を継ぐ人はいない。心配なのは農機具で、壊れたら新しいのを買うかどうか悩みの種である。

- ・1ヶ月に1回田んぼと畑を耕起している。水はけの悪い土地もあり、以前からゴマなどを植えて対応しているが、どうやって土地を活用していかなければいけないか悩んでいる。孫はいるが、生業としてやっていける規模ではない。真崎浦にも5反歩農地があるが、親戚にやってもらっている。畑もトラクターで耕起している程度である。多面活動のメンバーは白方には約79名いるが、全体で集まるのはいい時で15人。無関心の壁をどうにかしたいが、なかなか難しい。
- ・村長との意見交換の中でも、やはり5年後の耕作者がいなくなるという話が出た。牛のエサになるとうもろこしを作っている。自分の機械を買ってできるようにしたいと思っているが、機械が高すぎて買えない。もっと面積を増やさないといけないと思う。法人さんが手が回らない所などを貸してもらえると有難い。もし村内でチャンスがあればやりたいという思いがある。
- ・水稻の他に麦大豆、加工トマトもやっている。自然薯も栽培している。米が安かつた時に米以外の作物にチャレンジしたが、今年みたいに米の値段が高いときはもうちょっと米をやってもいいかなと思う。
- ・米を主に作っている。
- ・仕事と両立しているため、難しい部分もあるが、耕作放棄地なくすために頑張りたい。

## <問題点や課題の洗い出し>



### ○目標地図について

- ・地域の耕作者が知っている顔が減ってきた。
- ・法人の範囲が広い。法人が手が回らない箇所を割り振ってもらえると良い。
- ・地権者が分からず、相続が上手くいかなくてボサになっている農地もある。
- ・集積したい時に、誰に話せばよいか分からない。
- ・契約がスムーズにいけば目標地図に近づくのではないか。
- ・農業委員会からの情報や担い手同士の情報交換ができると良い。

### ○集積・集約について

- ・農業委員会と土地改良区のつながり、情報共有がもっとできれば良い。
- ・役場で手続きをすれば土地改良区の手続きも終わったと思う人が多い。役場から土地改良区にも手続きに行くように伝えてほしい。
- ・地権者がなくなってすぐは進めるのが難しい。
- ・農地の状況を把握することが必要。
- ・相続で世代が二代変わると分からぬことが増えてくる。

- ・段差があるところは集約が難しい。
- ・畦を取って大きな一枚にしようとしても、コンクリートの畦は取るのが難しい。
- ・モデル地区を作ることより、耕作者の集まりや情報共有の機会を増やした方が良い。
- ・賃借料がバラバラなので、標準小作料のような基準があると良い。
- ・耕作している農地が点在している現状では、集積集約は難しい。
- ・地域の接着剤的な人がいると良い。
- ・日頃からコミュニケーションを図り、情報を自ら取りに行けるようにすると良い。
- ・座談会などはコアな人を集めてやるのが良い。
- ・もっと中間管理事業の周知が必要。

#### ○放棄地解消に向けて

- ・多面的機能交付金の活動で保全活動をしており、ボサになっている農地についてどのようにしていくか検討中である。
- ・多面的機能交付金活動の参加者を増やしていくことが難しい。
- ・耕作しづらい農地が問題である。
- ・何かをきっかけに話し合いが始まると良い。
- ・農地が空いたらすぐに情報発信されると良い。
- ・賦課金を納め続けてもらうこと、活動が必要。
- ・土地改良区では、耕作放棄地の状況把握調査を行っており、現在とりまとめ中である。
- ・農業委員と土地改良区のパトロールが大事。

#### ○モデル地区について

- ・地域を代表する委員会（実践委員会のようなもの）がない。
- ・様々な想いを持っている人がいるので、まとめるのは大変。
- ・農地の交換やまとめていくことについて、イメージがわかない。簡単にはできないのではないか。
- ・これからその地域でどんなことをやりたいか（畑作、稲作、汎用性の高い圃場形成など）を考えなくてはいけないのではないか。
- ・壊地区的水が出るエリアなら交換可能かもしれない。
- ・白方の農地は段差があり、集積集約が難しいかもしれないが、沖田周辺は平らなので可能性はあるかもしれない。
- ・道下は水が必要ならポンプを動かすことができる。モデルになるかもしれない。
- ・大きくモデルを作るのではなく、小さなエリアから取り組んでいくのが良い。

### <まとめ>

- ・1区画単位の小さなエリアから集積集約を進める 것을目標にする。
- ・地域計画自体の周知が必要。特に地権者への周知が必要なので、土地改良区からのお知らせの際に合わせて周知するなど工夫していく。
- ・以前、豊岡の一部の地域では、リーダーとなる人が地域に声掛けをして農地の集約をし、細かい圃場が大きな圃場になった経緯がある。普段から地域内でコミュニケーションを取りながら少しずつそのような取組みをしていく。